

令和5年度漁業担い手満足度調査報告書の概要

令和6年11月
岩手県農林水産部
水産振興課

1 調査の概要

- 調査目的** 本県における「なりわい」としての漁業の魅力について、漁業者の満足度を指標として定量化するとともに、満足度に影響を与える要因を分析し、就業環境の改善などの漁業担い手対策の参考とするもの。
- 調査対象者** ①岩手県漁業士82名（青年漁業士16名、指導漁業士66名） ②若手漁業者95名（着業10年未満の漁業者）
- 調査方法** 設問票及びWebによるアンケート調査（総合満足度及び個別満足度30項目）
- 対象期間** 令和4年11月～令和5年10月
- 実施時期** 令和5年10月～令和5年11月
- 有効回答数** ①岩手県漁業士47名（回収率57.3%） ②若手漁業者24名（回収率25.3%）
- 総合満足度** 総合満足度は、「非常に満足」、「満足」、「やや満足」、「ふつう」、「やや不満」、「不満」、「非常に不満」の7段階評価とし、それぞれ「3点」から「-3点」までの1点刻みで数値化して分析した。
- 個別満足度** 項目ごとに、「そう思う」、「まあ思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の4段階で評価し、それぞれ「4点」から「1点」までの1点刻みで数値化して分析
- 総合満足度の構造分析**
総合満足度と個別満足度の関係を分析するため、満足度（個別項目でまあ思う以上の割合）と重要度（個別項目のうち、どの項目が総合満足度に影響を与えているか）を算出し、改善度として優先して改善すべき項目を数値化して分析（改善度については、『課題項目』（重要改善分野）のうち、正の数値が大きいほど優先して改善すべきものとなる）

2 総合満足度の推移

- 回答者全体**
今回の調査では、回答者数71人全てが有効回答であり、総合満足度は0.44点と令和4年度よりも上昇しましたが、過去3番目に低い数値となりました（図1）。
- 漁業種類別**
漁業種類別の総合満足度は、漁船漁業が0.10点、養殖業が0.56点、採介藻漁業が0.18点となり、漁船漁業と採介藻漁業は前回の調査と比べて上昇しましたが、養殖業は前回の調査と比べて低下しました（図2）。

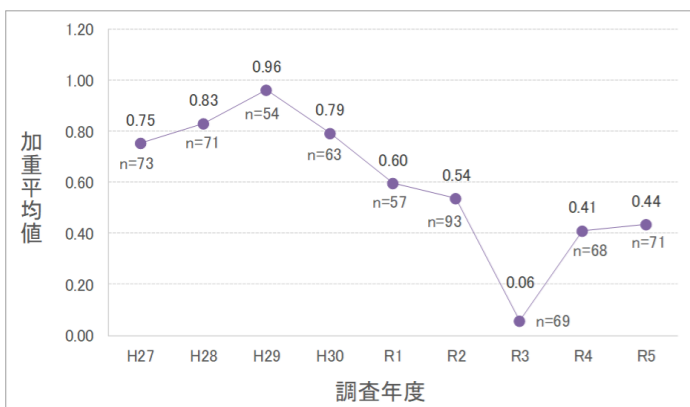


図1 回答者全体の総合満足度の推移 (n: 有効回答者数)

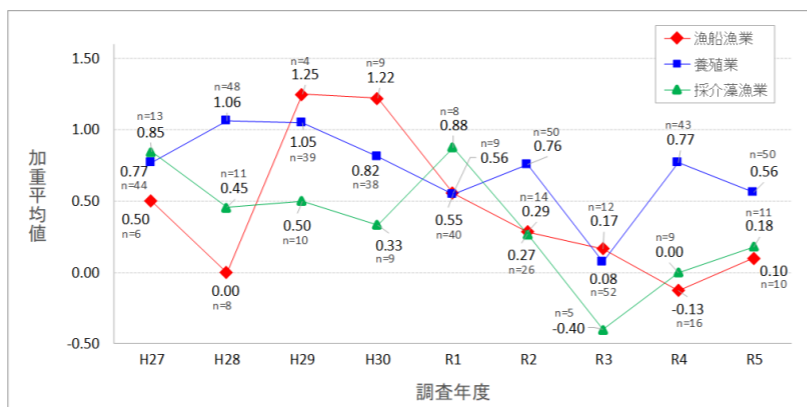


図2 漁業種類別の総合満足度の推移 (n: 有効回答者数)

3 総合満足度の構造分析

- 個別満足度の評価項目（30項目）について、総合満足度との相関係数で評価し、『重要項目』（総合満足度と関係が強く、かつ個別満足度の高い項目）と、『課題項目』（総合満足度と関係が強いものの、個別満足度の低い項目）に定義しました。
- 『重要項目』… 就業に対する魅力の源泉
- 『課題項目』… 就業に対する魅力の伸びしろ
- 今回の調査では、『重要項目』に「やりがい」、「継続意欲」、「漁業者間の信頼」、「能力の活用」、「成長期待」の5項目が分類されました。
- また、『課題項目』として、「将来への希望」、「漁協への帰属意識」、「仕事量・労働時間」、「生産環境」、「収入水準」、「漁業就業者支援」、「役割の発揮」、「労働力確保」、「評価基準」、「努力の反映」の10項目が分類されました（図3）。
- 改善度を分析したところ、「漁業就業者支援」、「漁場環境」、「収入水準」の順で改善度が高く、優先的に改善が求められています。

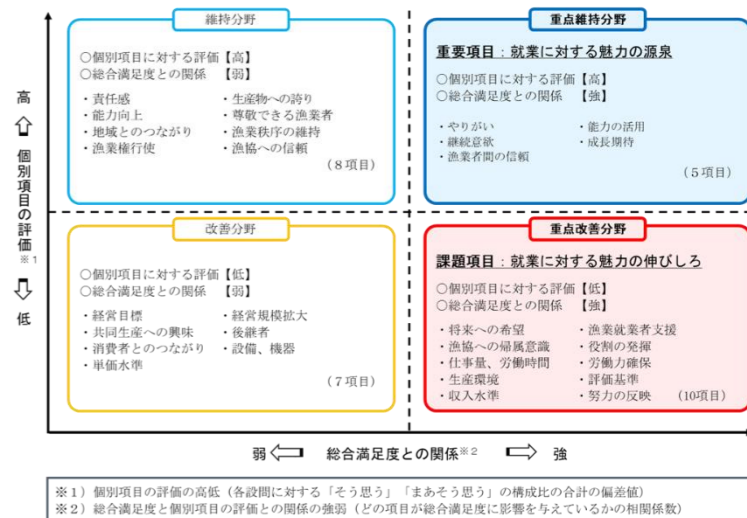


図3 総合満足度の要因

4 漁業種類別の個別満足度の分析

- 養殖業**
重要項目として「やりがい」や「将来への希望」を含む6項目、課題項目として「漁業就業者支援」を含む9項目となりました。課題項目のうち、改善の優先順位が高い順に、「収入水準」、「労働力」、「漁場環境」となっています。
- 漁船漁業**
重要項目として「やりがい」や「成長期待」を含む6項目、課題項目は「将来への希望」を含む11項目となりました。課題項目のうち、改善の優先順位が高い順に、「漁業就業者支援」、「評価基準」、「漁場環境」となっています。
- 採介藻漁業**
重要項目として「能力の活用」や「継続意欲」を含む10項目、課題項目として「計目標」を含む8項目となりました。課題項目のうち、改善の優先順位が高い順に、「消費者とのつながり」、「経営規模拡大」、「役割の発揮」となっています。

表 個別満足度評価表（漁業種類別）

要因区分	項目	漁業種類		
		養殖業	漁船漁業	採介藻漁業
仕事	やりがい	◎ -1.50	◎ -5.51	◎ -3.81
	将来への希望	◎ 5.74	■ 7.49	■ 9.05
	責任感	-10.28	■ -6.34	■ -8.66
	能力の活用	◎ -0.82	◎ -12.02	◎ 0.10
	生産物への誇り	◎ -12.29	◎ -6.82	◎ -11.01
自己の成長	継続意欲	◎ -2.53	◎ -18.83	◎ -0.81
	成長期待	◎ -2.03	◎ 2.34	◎ 1.67
経営目標	能力向上	◎ -6.54	◎ -6.01	◎ -10.28
	経営目標	◎ 2.05	◎ -16.54	◎ 5.80
	経営規模拡大	-2.79	◎ -5.82	◎ 10.68
	共同生産への興味	-0.67	◎ -9.28	◎ -9.38
	後継者	2.59	◎ -0.14	◎ 9.53
他の漁業者との関係	尊敬できる漁業者	-7.56	◎ -2.69	◎ 0.54
	漁業者間の信頼	-10.04	◎ 3.53	◎ 0.54
	漁業就業者支援	◎ 9.86	◎ 14.29	◎ 9.39
地域住民や消費者との関係	地域とのつながり	-11.97	◎ 0.25	◎ -15.41
	消費者とのつながり	-2.29	◎ -1.09	◎ 16.68
漁協との関係	漁協への帰属意識	◎ 6.23	◎ 3.29	◎ -1.49
	漁業秩序の維持	-14.51	◎ -2.48	◎ -0.86
	漁業権行使	-6.47	◎ -1.23	◎ -3.51
	漁協への信頼	-7.34	◎ 6.59	◎ -0.59
労働条件	役割の発揮	◎ 6.89	◎ 9.82	◎ 10.00
	仕事量・労働時間	◎ 6.38	◎ 10.96	◎ -11.30
	労働力確保	◎ 13.87	◎ -1.25	◎ -0.37
	設備・機器	◎ 1.50	◎ -7.02	◎ 1.57
	漁場環境	◎ 12.91	◎ 12.83	◎ 7.02
収入	準備水準	◎ 3.21	◎ 8.21	◎ -0.55
	評価基準	◎ 6.67	◎ 13.11	◎ 2.13
	収入水準	◎ 13.98	◎ 9.24	◎ -0.56
	努力の反映	◎ 7.58	◎ 9.15	◎ -6.56

※ 漁業種類ごとの構造分析として、総合満足度との相関係数で評価し、総合満足度と関係が強く、かつ個別満足度の高い項目を「重要項目◎」、総合満足度と関係が強いが、個別満足度の低い項目を「課題項目■」としている。
 また、個別項目の改善すべき優先順位を判断するため、改善度を算出し、優先度上位3項目を赤字で記載している。

まとめ

令和5年度の総合満足度は令和4年度に比べ上昇していますが、長期的な視点では、平成29年度をピークに低下傾向にあります。総合満足度の構造分析では、就業に対する魅力である「重要項目」の項目数が減少し、就業に対する伸びしろである「課題項目」の項目数が増加する傾向にあり、「課題項目」の中でも、「漁業就業者支援」、「漁場環境」、「収入水準」の順で、優先的に改善が求められています。

このため、県では、「いわて県民計画（2019～2028）」第2期アクションプランの分野別計画として、令和5年3月に「岩手県漁業担い手育成ビジョン（令和5～8年度）」を策定し、市町村や漁協、漁業関係団体と連携しながら、次代を担う意欲ある新規漁業就業者の確保・育成と地域漁業の中核となる強い漁業経営体の育成を推進し、漁業者の満足度の向上とともに、「なりわい」としての漁業の魅力の向上を図っていきます。